

## 第3章 魅力的な夜間景観の作り方

本章の上段では、第2章で設定したエリア毎にテーマに沿った夜間景観をつくるポイントを提案します。地域の特徴を活かすためにはどのような点に着目すればよいのか、一緒に考えましょう。

また、下段では夜間景観づくりに知っておくと便利な照明手法を紹介します。これらの照明手法は特定のエリアで使用する技術ではなく、様々なエリアで工夫しながら応用することで、魅力づくりに多くの可能性が生まれるあかりのヒントです。

### 3-1 小倉駅新幹線口周辺エリア



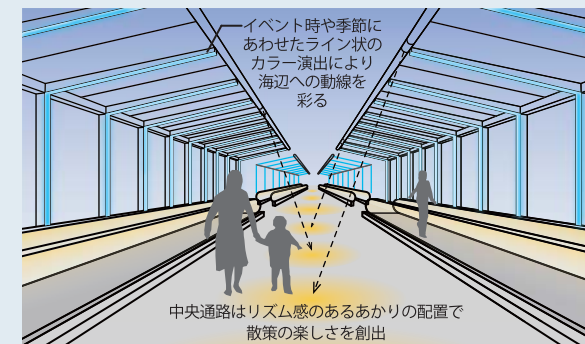
#### 躍動感あふれる都会のオアシス

夜間も市民や来訪者が集まり、イベントやウォーキングなどのアクティビティを楽しむ憩いのスポットづくりを目指します。また、海辺から見える工場夜景は、見る人が心揺さぶられる特徴ある光景であり、その魅力を積極的に取り込むことが大切です。小倉駅新幹線口からつながるペDESTリアンデッキは1階から連続する光を意識して各方面へつなげるなど、歩いてみたくなる景観照明が望まれます。



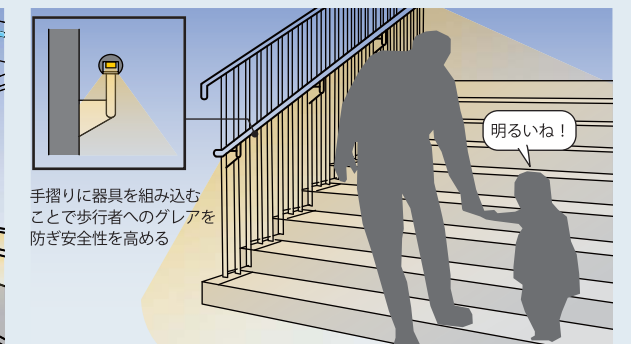
#### あかりの動線をつくる

##### ■ 駅と海辺をつなぐ



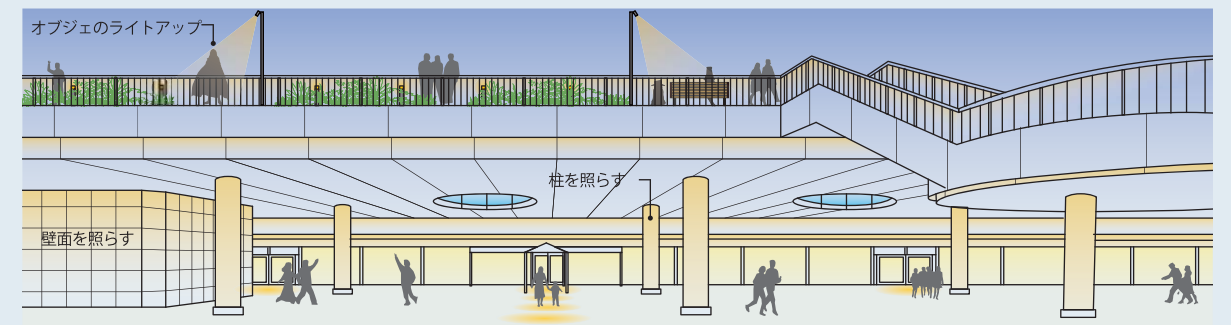
通路にリズム感のあるあかりを配置することで楽しい空間づくりをすることができます。

##### ■ 安全につなぐ



ペDESTリアンデッキから1階へとつながる階段の手摺りに照明を取り付けることで安全性を高めたり動線をつくるすることができます。

##### ■ 駅の印象を高める

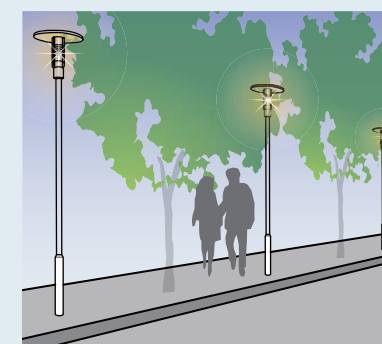


1階は壁や柱などの鉛直面を照らすことで、来訪者が気持ちよく利用できる明るい空間を創出することができます。



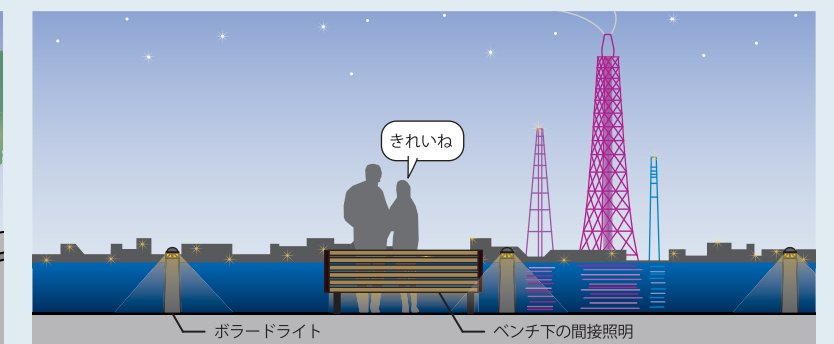
#### 華やかさと落ち着きのあかり

##### ■ にぎわいの演出



きらめきのある光を連続させることでにぎわいのある雰囲気演出できます。

##### ■ 落ち着きのある空間の演出



工場夜景を望める場所で足元を照らすボラードライトや、佇む場となるベンチなどにグレアの少ないあかりを配置すると、落ち着きのある空間を創出できます。

### 3-2 平和通東側周辺エリア



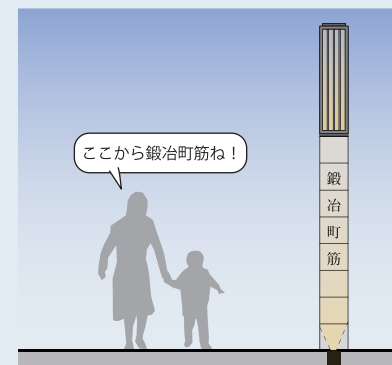
#### 城下を感じる遊び心ある繁華街

江戸時代の町割りに見られる旧筋名が残る小倉の街。歴史や伝統を活かす取り組みと連携することも大切です。各通り筋毎に商人の町らしさを残した遊び心のある光を展開するなど、細やかな演出により個性ある表情をつくることで、市民も来訪者も小倉の歴史に触れながら歩いて楽しめる、夜間景観照明が望まれます。



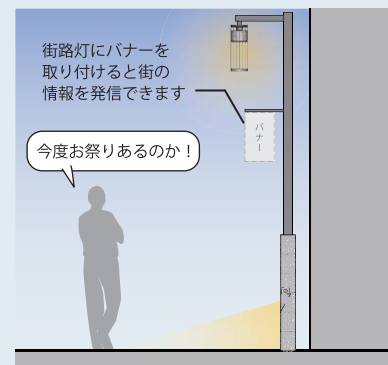
#### まちをわかりやすくするあかり

##### ■ 通りのゲートをつくる



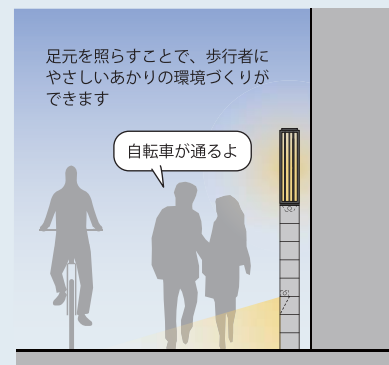
通りの起終点を示すゲートライトは、光の拠点となります。

##### ■ 通りの印象を高める



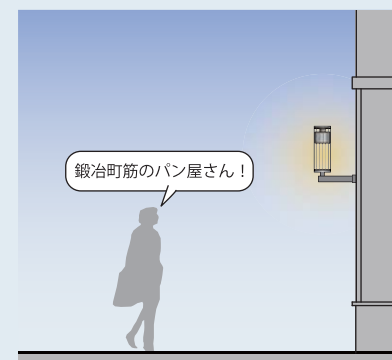
景観と調和を図ったデザインの街路灯は通りの印象を高めることができます。

##### ■ 回遊を促す



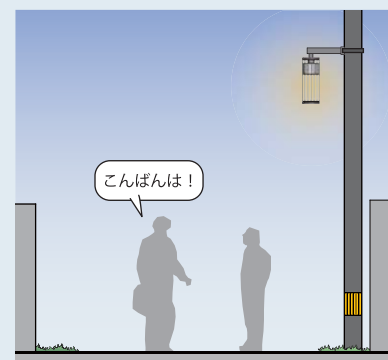
歩行者、自転車に配慮したあかりは回遊の促進につながります。

##### ■ 民間施設と一体感をつくる



民間施設の照明意匠を街路灯とあわせることで通りの一体感が生まれます。

##### ■ 路地を照らす



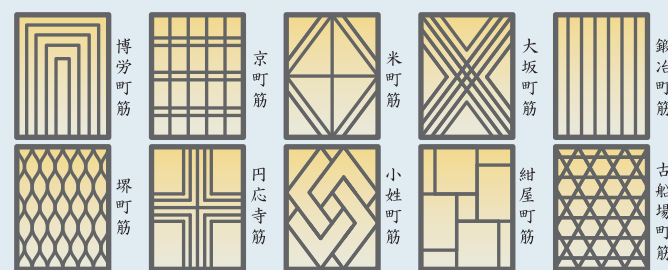
電柱に照明器具を取り付ける場合も意匠を街路灯とあわせることで一体感が生まれます。

##### ■ 来訪者を案内する

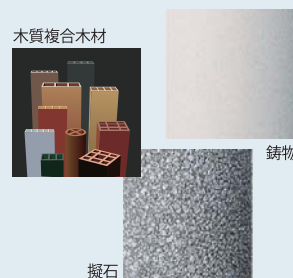


案内板のデザインや照明を街路灯の意匠と連携させることで、表情豊かなまちづくりができます。

##### ■ 遊び心のあるあかり



通りの違いによる灯具デザイン例(イメージ)



素材の違いにより多彩な表情を創出できます

例えば、江戸時代の町割りに見られる旧筋名を活かし、通りごとに異なる灯具をデザインすることで、まちの統一感の中に個性を表現することができます。

### 3-3 旦過・古船場町周辺エリア



#### 暮らしを豊かにするあかり

来訪者と同様に生活者の利用も多い市場や、住宅も多いエリアです。利用者が不安を感じずに安心して通れる光環境を確保します。また、地域に親しまれる公園は、夜も憩いや活動の場となるように陰影のある落ち着いた光を用い、住民交流や地域の魅力アップを促進する夜間景観づくりが望まれます。

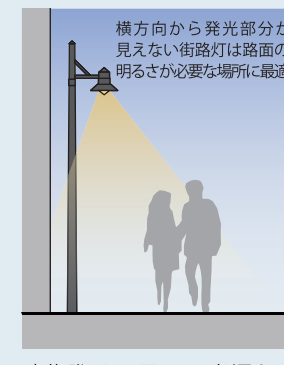


#### 生活動線のあかり

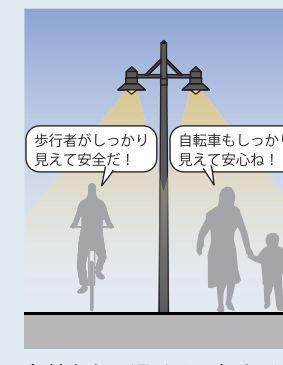
##### ■ 場所の機能に合わせた照らし方の選択



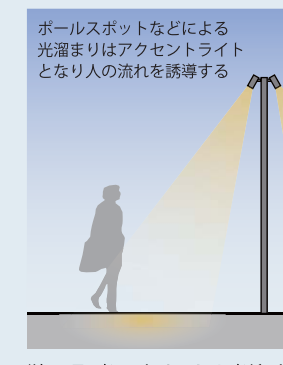
下方主体のあかりの広がり、樹木などの表情を取り込み、防眩方向へのあかりで路面の明るさを創出できます。



建物際は周囲への光漏れを防ぐ片方向へのあかりで路面の明るさを確保できます。

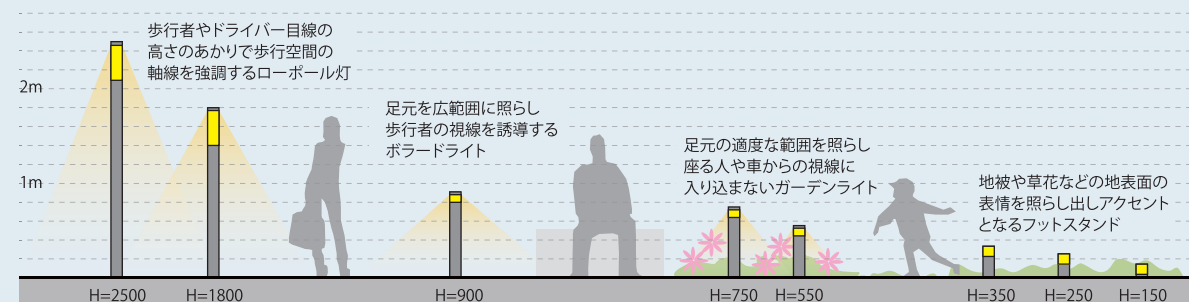


主軸となる通りは2灯タイプの下方配光のあかりで路面の明るさを確保できます。



狭い配光のあかりは光溜まりをつくり陰影のある落ち着いた空間を創出できます。

##### ■ 場所の特徴に合わせたあかりの高さの選択



地被植物や石貼りなどの地表面、草花や低木などの植物、ストリートファニチャー、人や車に対する誘導など、照らす対象物や目的にあわせて高さの設定が大切です。



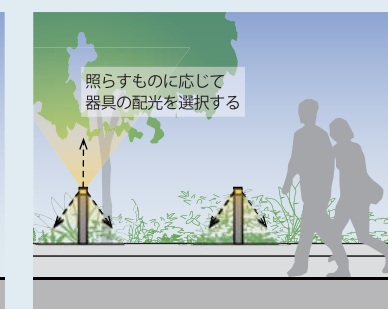
#### 市民に親しまれる公園のあかり

##### ■ 語らうための空間づくり



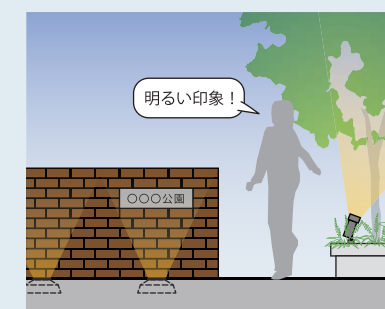
低い位置のあかりを点在させることで、落ち着いた語らいの空間を演出できます。

##### ■ 器具の意匠の統一



器具の意匠を統一し、配光や高さを変えることで様々な表情を生むことができます。

##### ■ 安心感をつくる



植栽や壁面などの鉛直面を照らし明るくすることで安心感が生まれます。



### 3-4 浅野二丁目周辺エリア



#### 探究心を膨らませるあかり

小倉駅新幹線口に隣接する立地で、飲食店も立ち並ぶ落ち着いた雰囲気のある浅野二丁目周辺は、イベントやアクティビティで小倉都心地区を訪れる人々が、小倉駅の利用とあわせて訪れたいような通りとなる照明計画が大切です。暮らす人が安心して、訪れる人をあたたかくお迎えするような夜間景観づくりが望まれます。

### 3-5 平和通西側周辺エリア



#### 昼間の賑わいを明日へリレーするあかり

昼夜問わず人通りが多い繁華街。多くの店舗が並び、街の活気や味わいを感じるエリアです。通り全体の印象を高めるため、閉店後も店舗に光を残すことで、魅力的なあかりの動線をつくることができます。行き交う人の流れや表情を取り込みながら、明日もまた訪れたいような、通り毎の個性ある夜間景観づくりが望まれます。



#### 夜間景観を形成するあかりの3つの要素

##### ■ 透過光・投光・発光



透過光

施設・店舗・住宅などの窓あかりやライトアップ、サイン照明など、内部から漏れるあかりを透過光といいます。



投光

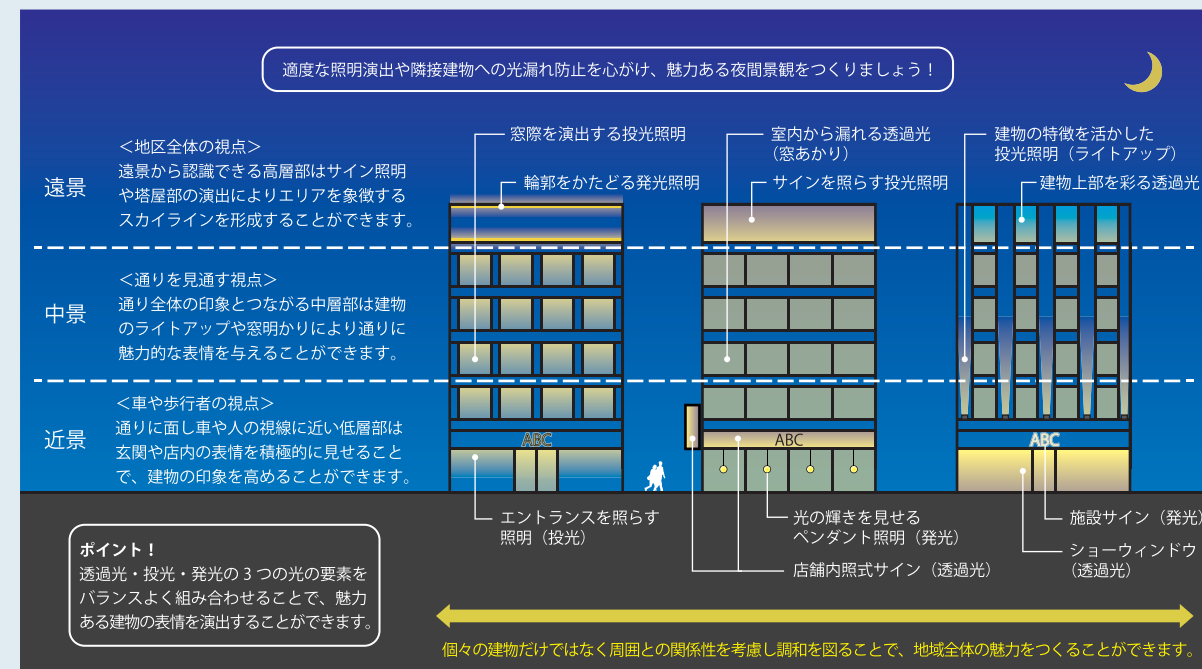
屋外サインや建物、ショーウィンドウなど、対象物を直接照らすあかりを投光といいます。



発光

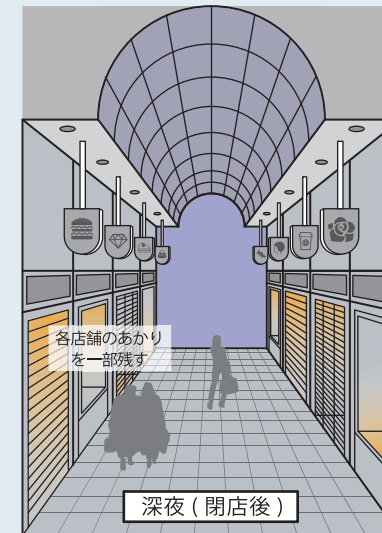
輪郭をかたどるライン照明や施設サイン、ペンダント照明、イルミネーションなど輝きを直接見せるあかりを発光といいます。

##### ■ 魅力ある夜の表情づくり



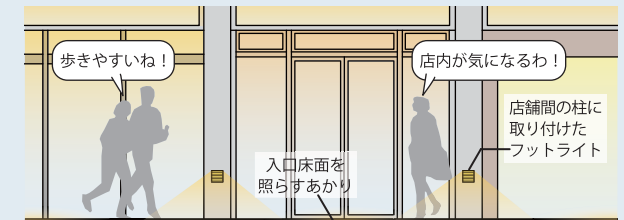
#### アーケードのあかり

##### ■ アーケードのあかりの残し方



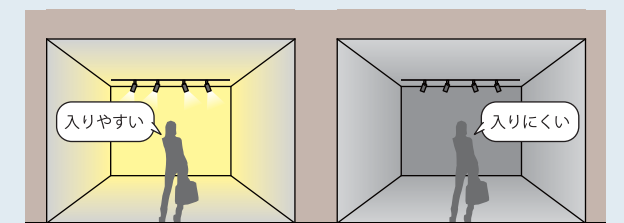
閉店後も店舗のあかりを一部残すことで通路に安心感のある魅力的なあかりの動線をつくることができます。

##### ■ 人を引き付けるあかり



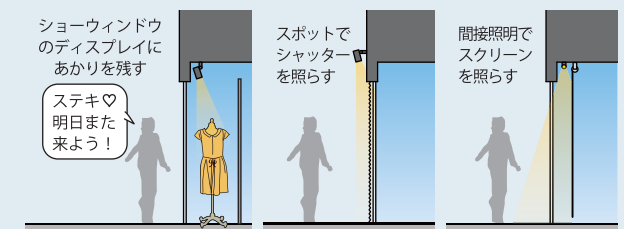
店舗間の柱にフットライトを取り付け床面にリズムを与えることで歩道の安全性と回遊性が高まります。

##### ■ 入りやすい店舗のあかり



店舗の奥の壁面を明るく照らすことで、空間の奥行きと広がりを感じさせることができ人が入りやすい雰囲気づくりができます。

##### ■ 閉店後のあかり



店舗に合った閉店後のあかりの残し方で、通りの魅力を高めることができます。